

古屋秀隆准教授が 2019 年度日本動物学会学会賞を受賞

大阪大学大学院理学研究科の生物科学専攻および熱・エントロピー科学研究センター（兼任）の古屋秀隆准教授が、公益社団法人日本動物学会による 2019 年度「日本動物学会学会賞」を受賞しました。この賞は、学術上、有益で動物学の進歩発展に重要な貢献をなす業績を挙げられた研究者に贈られているものです。

今回の受賞は、古屋先生の研究テーマである「ニハイチュウの生物学」が高く評価されたものです。古屋先生は、従来「中生動物」として、後生動物と原生生物の中間に位置づけられると考えられてきたニハイチュウに関する生物学的研究を独自に切り拓いてこられました。50 種もの新種の記載と再記載を積み重ねることで、ニハイチュウの多様性を明らかにしてこられただけでなく、ニハイチュウが後生動物の中でも冠輪動物に近縁であるという系統学的な位置の解明にも大きく貢献されてきました。発生過程を記載していく中で、ニハイチュウの初期卵割はらせん卵割の短縮されたものであることを見出され、冠輪動物との近縁性をさらに裏付ける成果も上げられています。また、分類学的な研究にとどまらず、細胞接着構造の解明や胚発生における遺伝子発現様式の解析を行い、寄生性の生活史に移行した過程で、どのような体制の改変が施されてきたかも明らかにしてこられました。このように、動物学的に重要な系統的位置を占めるニハイチュウに関して、幅広い視点から研究を積み重ね、この動物の進化の歴史、生活様式に関する包括的な理解をもたらした古屋先生の功績は、日本動物学会学会賞を授与されるのにふさわしいと言えます。

なお、授賞式は、2019 年 9 月 12 日～14 日に大阪市立大学で開催された日本動物学会第 90 回大阪大会にて行われました。古屋先生の今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（宮崎裕司）

